

習志野文化ホール及び類似施設調査に基づく考察

株式会社シアターワークショップ

平成31年3月

■目次

1. 習志野文化ホールの仕様	1
(1) 客席数による整理.....	1
(2) 目的による整理.....	2
(3) 県内における位置づけ.....	3
(4) その他ホール詳細仕様.....	4
2. 比較対象施設	9
(1) 抽出条件.....	9
(2) 比較対象施設.....	10
(3) 調査手法.....	10
3. 比較調査結果と考察	11
(1) 立地アクセス.....	11
(2) 施設（ホール）規模.....	12
(3) 主たる機能及び特徴.....	18
(4) 稼働状況.....	24
(5) 利用料金.....	26
(6) 管理運営形態.....	27
(7) その他.....	27
4. 市民意識調査からの考察	30
5. 想定される施設像と概算費用	35
(1) 新ホールの方向性.....	35
(2) 概算建設費.....	38

1. 習志野文化ホールの仕様

(1)客席数による整理

ホールは、一般的に規模が小さいほど舞台と客席の距離が近く、客席から出演者の細かな表情や動作まで良く見え、セリフや音も直接受け取ることができる。出演者としても客席に対して直接的に伝えることができ、双方で対話しながら作品をつくりあげていくような一体感が得られると言われている。

800席以上の規模になると、客席の最後方や一部の席では、見えづらさや聴こえづらさが生じてくるため、演者であれば身振り手振りを大きくし、特殊な発声法が必要となり、演奏者であれば音を強く出したり、編成を大きくしたりするなどに対応していくことが必要になってくる。

さらに1600席以上になると、身振り手振りなどの大きな表現を識別するのも、聴覚上の識別も困難になってくるため、電氣的な拡声や音量を増幅しなければ聞き取れなくなってくる。また、演技的な要素が視認できなくなるため、会場の興奮や群衆的な臨場感を楽しむことに変わってくる。

1,475席の習志野文化ホールは、視聴覚できる「大ホール」の境界的な位置にある。

■客席規模とホールの見え方・聞こえ方

客席	200		400	600	800	1000	1600	2000	10000	25000	50000
ホール分類	ミニホール	小ホール	中ホール			大ホール		超大ホール	アリーナ・体育館	ドーム・スタジアム	
見え方 (最大視距離)	舞台上立つ主演者の細かい表情まで識別できる		細かい表情や動作が識別できる		身振り手振りによる大きな表現が識別できる		演技的な要素は視認できない 会場の興奮や群衆的な臨場感を楽しむ				
聴こえ方 (聴覚識別度)	ささやきでも聞き取れる			大きな声、強い音が聞き取れる			電氣的な拡声や音量の増幅がないと聞き取れない				
出演者の対応	語り言葉によるコミュニケーションが可能			特殊な発声法などが必要			電氣的な音響・映像コントロールが必要				

(2) 目的による整理

劇場・ホールは、大きく分けてクラシック音楽専用のコンサートホール、演劇専用の劇場等、特定の演目やジャンルに特化した「専用ホール」と多用途、多ジャンルに対応できる「多目的ホール」に分けられる。¹

習志野文化ホールは、「多目的ホール」に位置付けられ、クラシック音楽はもちろん、ポピュラー音楽、演劇、伝統芸能等様々なジャンルにも対応できるホール仕様となっている。

■専用ホールと多目的ホール

分類	専用ホール		多目的ホール	
	コンサートホール (クラシック音楽専用)	劇場 (演劇専用)	可変機構により多用途・多ジャンルに対応出来るようつくられたホール	
大ホール	札幌コンサートホール Kitara 	彩の国さいたま芸術劇場 	いわき芸術文化交流館アリオス 大ホール  ◎ナカサアンドパートナーズ (反射板形式)	
	大ホール	大ホール	 ◎ナカサアンドパートナーズ (プロセニアム形式)	
小ホール	浦安音楽ホール 	彩の国さいたま芸術劇場 	浦安音楽ホール 	ハーモニーホール 
	コンサートホール	小ホール	◎SATOSHI ASAKAWA (移動観覧席使用時)	◎SATOSHI ASAKAWA (平土間形式)

¹多目的ホールの発展型として、音楽主目的、演劇主目的など軸を設定した上で可能な限り多用途に対応できるような「主目的ホール」がある。さらに近年では可変機構などの進歩によって、より高度に様々な用途や演目に対応できる高機能型の多目的ホールとして「多機能ホール」が増えている。

(3) 県内における位置づけ

千葉県内では、千葉マリスタジアム(30,082席)、幕張メッセ・イベントホール(9,000席)、舞浜アンフィシアター(2,170席)を含む、県内で8番目に大きいホールで、県内では唯一パイプオルガンを所有するホールである。県内のホール分布状況として、1,000席以下のホールが多く、1,000席を超えるホールは少ない。

■千葉県内の客席別ホール分布状況

客席数	200	400	800	1000	1200	1600	2000	3000	10000	25000	50000
ホールの客席規模	ミニホール	小ホール	中ホール		大ホール		超大ホール	アリーナ・体育館			ドーム・スタジアム
千葉県	<ul style="list-style-type: none"> ▲浦安市民プラザ ウェーブ101 多目的小ホール(601) ▲浦安市民プラザ ウェーブ101 多目的中ホール(80) ▲千葉市若葉文化会館 中(150) ▲千葉市若葉文化ホール 音楽ホール(152) ▲浦安音楽ホール ハーモニホール(201) ▲木更津市民会館 小(120) ▲八千代市八千代文化センター(250) ▲千葉県文化会館 小(252) ▲船橋市民文化創造館 きらりホール(264) 	<ul style="list-style-type: none"> ▲千葉県総合文化ホール 小(300) ▲船橋市民文化会館 小(300) ▲浦安市民プラザ ウェーブ101 多目的大ホール(300) ▲白井市民文化会館 かおりホール(300) ▲成田国際文化会館 小(300) ▲成田市民文化芸術センター(301) ▲千葉県総合文化会館 小(302) ▲浦安音楽ホール コンサートホール(303) △千葉市民会館 小(316) ▲八千代市磯田台文化センター(326) ▲東部台文化会館(338) △東金文化会館 小(340) ▲ツルギホール 第2ホール(340) ▲千葉市美浜文化ホール メインホール(354) ▲浦安市文化会館 小(355) △山成市ささふの森文化ホール(357) ▲成東文化会館 のぞくプラザ(368) 	<ul style="list-style-type: none"> ▲習志野市民会館(400) ▲白子町青少年センター(432) ▲八千代市民会館 小(439) ▲市川市民文化会館 小(448) ▲さわやからばら市民プラザ(475) ▲市原市民会館 小(483) ▲千葉市文化センター アートホール(497) ▲木更津市民会館 中(500) ▲君津市民文化ホール 中(502) △山成市民文化ホール(502)H31.4開館予定 ▲成田市大東公民館(508) ▲森のホール21 小(516) ▲千葉市東区文化ホール(517) ▲印西市文化ホール(522) ▲鎌ヶ谷市さくらり鎌ヶ谷市民会館 きらりホール(540) △千葉県福祉ふれあいプラザ ふれあいホール(551) ▲大宮町町立中央公民館(552) ▲いわみ市民会館文化会館(600) △富津市民会館(602) △行徳文化ホール(639) ▲船ヶ浦市民会館 大(653) ▲佐倉市民会館ホール(667) ▲かひさみ市民文化ホール(700) ▲長生村文化会館(701) ▲富津市中央公民館(703) ▲千葉県緑科文化プラザ(719)H30.3.31閉館 ▲新習志野市民文化センター(794) ▲日昇市民文化会館 なしおホール(798) 	<ul style="list-style-type: none"> ▲船橋市民文化ホール 大(1000) ▲千葉市民会館 大(1001) ▲市原市民会館(1030)H31.3閉館 ▲鎌子市青少年文化会館 大(1081) ▲ふれあいプラザさかえ(1086) ▲木更津市民会館 大(1134) ▲成田国際文化会館 大(1188) ▲浦安市文化会館 大(1188) ▲君津市民文化ホール 大(1200) ▲千葉県南総文化ホール 大(1200) ▲松戸市民会館(1212) ▲東金文化会館 大(1215) ▲野田市文化会館 大(1236) ▲八千代市民会館 大(1265) ▲柏市民文化会館 大(1338) 	<ul style="list-style-type: none"> ▲幕張メッセ・イベントホール(9000) 	<ul style="list-style-type: none"> ▲習志野文化ホール 大(1476) ...パイ ▲市原市民会館 大(1531) ▲千葉県文化会館 大(1790) ▲市川市民文化会館 大(1945) ▲森のホール21 大(1955) ▲舞浜アンフィシアター(2170) 	<ul style="list-style-type: none"> ○千葉マリスタジアム(30082) 				
凡例	<ul style="list-style-type: none"> ▲…劇場型多目的ホール(固定席)、△…多目的ホール(移動観覧席)、★…音楽専用ホール、■…平土間ホール、●…アリーナ、○…スタジアム ※赤字は閉館及び開館予定、緑で緑字はパイプオルガン 										

(4)その他ホール詳細仕様

以下の通り、他施設と比較するためにホール仕様を一覧で示す。

①基本情報

正式名称		習志野文化ホール	
複合施設全体名称		モリシア津田沼(旧サンペデック)	
竣工年	年	1978	
築年数	2019年時点 年	41	
所有者		習志野市	
所在地		千葉県習志野市	
人口(市町村)	H25年国勢調査 人	167,291	
アクセス	最寄駅より徒歩 分	4	
		①JR「津田沼駅」徒歩4分 ②京成線「京成津田沼駅」徒歩15分 ③新京成線「新津田沼駅」徒歩10分	
	駐車場台数 台	741台(モリシア駐車場)	
主要交通機関	電車	●	
	自家用車		
		※バスロータリーすぐ	

②施設形態

分類		公共施設	
形態		複合施設	
複合する施設	民間	商業施設	●(店舗・レストラン)
		宿泊施設	
		その他施設	オフィス、モリシアホール
	公共	役所	●(連絡所)
		図書館	
		その他公共施設	

③ホール利用状況

ホール①	ホール名		習志野文化ホール
	席数	席	1,475
(定員)	人		
利用可能日数	日	308	
利用日数実績	日	226	
ホール稼働率	%	73.38%	
年間利用人数	人	198,156	
ホール②	ホール名		多目的ホール（モリシアホール）
	席数	席	220
	(定員)	人	
	利用可能日数	日	330
	利用日数実績	日	305
	ホール稼働率	%	92.42%
	年間利用人数	人	41,263

* 公益財団法人習志野文化ホール「平成28年度利用実績」²より

④ホール仕様（習志野文化ホール）

舞台	プロセニウム間口	m	19.0
	奥行（框～ホリゾン幕）	m	16.0
	高さ（スノコ下）	m	21.9
	上手袖幅	m	8.8
	下手袖幅	m	14.3
装置	音響反射板		あり
	オーケストラ迫り		あり
	客席ワゴン		あり
	大迫り		なし
	小迫		なし
	花道		あり
	(固定・仮設)		固定
	照明バトン／ブリッジ		サスバトン
	本数	本	5本（内1本、バックサスバトン）
吊物	電動／手動	電動＋手動	

² 直近の平成29年度は改修工事があったため、通年で開館していた直近の実績として平成28年度を比較対象年とした。

装置	昇降ティザー/プロセブリッジ		なし
	可動ウィング		なし
	吸音幕・カーテン		なし
	残響可変装置		なし
	客席間仕切り装置		なし
	その他		パイプオルガン
附属	リハーサル室	室	1
	楽屋（大）	室	1
	楽屋（中）	室	2
	楽屋（小）	室	3
	合計人数	人	90
搬入口	搬入階	階	1
	（舞台階）	階	5
	トラックサイズ	t	4
	（台数）	台	1
	搬入用EV台数	台	1
	①積載重量	t	2.2
	間口	m	4
	奥行	m	2.2
	高さ	m	3.7~5.5
客席	1階席	席	1,475
	車椅子席（常設）	席	
	最大席数	席	12
	減客席	席	18
	親子室数	室	0
その他			

* 習志野文化ホール「舞台平面図・断面図」より

⑤諸室利用状況

諸室	諸室名		ギャラリー
		利用可能日数	日
	利用日数実績	日	98
	稼働率	%	29.79%
	年間利用人数	人	3,524

⑥建設費・延べ床面積

建設費	全体（税抜）	円	2,639,000,000
延床面積	全体	m ²	9,903.00

⑦運営方式

運営方式	直営	
	指定管理者 （公募・非公募）	● 非公募
	PFI	
	事業者名	公益財団法人習志野文化ホール

⑧施設利用実績

●文化ホール

		年度	2017	2016	2015	2014
開館日数			262	329	330	305
利用可能日数			249	308	301	305
利用日			194	226	229	222
利用率			77.9%	73.4%	76.1%	72.8%
公演回数			191	224	236	563
入場者数			171,465	198,156	216,381	200,200
利用ジャンル （件数）	クラシック音楽		50	58	58	75
	ポピュラー・歌謡		23	27	21	21
	オペラ・バレエ		7	7	11	6
	邦楽・邦舞		1	2	2	4
	演劇		11	10	12	12
	映画		2	2	2	2
	演芸		4	9	7	6
	集会・大会		67	75	86	65
	リハーサル仕込		49	55	59	72
	合計		214	245	258	263
パイプオルガン実績						
回数			21	31	27	32
件数			14	19	17	21

●ギャラリー

年度	2017	2016	2015	2014
開館日数	262	329	330	305
利用可能日数	262	329	330	305
利用日	49	98	63	55
利用率	18.7%	29.8%	19.1%	18.0%
公演回数	32	54	44	32
入場者数	1,646	3,524	2,934	

●モリシアホール（イベントホール）

年度	2017	2016	2015	2014	
開館日数	334	331	330	306	
利用可能日数	330	328	327	306	
利用日	305	294	302	286	
利用率	91.3%	88.8%	91.5%	93.5%	
利用件数	268	235	246	349	
入場者数（合計）	41,263	43,338	38,482	32,841	
利用ジャンル （件数）	発表会	32	18	25	23
	講演会／講習会	85	77	73	139
	展示会	47	46	46	59
	物品販売	22	15	20	25
	その他	82	79	82	103
	合計	268	235	246	349

■特記事項

- ・ 上手側花道上にパイプオルガン³が設置されている。
- ・ 客席が1階ワンスロープ型である。
- ・ 40年前に開館したこともあり客席側ホワイエにエレベーターがない、親子室がないなどバリアフリー対応が現代の基準では十分とはいえない。
- ・ 楽屋エリアにリハーサル室があるため、ホール利用時には貸出できず統計もない。
- ・ 商業施設、オフィスとの複合施設である。
- ・ モリシアホールはオフィスの一部にあり、別棟であるが、習志野文化ホールと同じ財団が運営しており、関連する施設として記載した。

³ ヘルベルト・フォン・ベッケラート社製(ドイツ製)

2. 比較対象施設

(1)抽出条件

本調査では、参考比較する最新類似施設として以下の基準で抽出を行った。

■比較調査対象の抽出条件

- ア.習志野市と人口規模の近い自治体のホール
- イ.収容規模の近いホール
- ウ.文化振興方針等が本市と類似した自治体等のホール
- エ.立地条件等が類似しているホール
- ※民間ホール 1施設以上含む
- ※上記の最新事例

ア. 習志野市と人口規模の近い自治体のホール

- ・2015年国勢調査人口を基準とし、習志野市 **167,909人の±5万人**の自治体を近似と想定する。

イ.収容規模の近いホール

- ・習志野文化ホールが1,475席。「大ホール」を基本とし、**1,200席以上2,000席程度**を基準とする。

ウ.文化振興方針等が本市と類似した自治体等のホール

- ・習志野市のキャッチコピーである **①「文化の薫るまち」「音楽のまち」と同様のキャッチコピーを有する自治体**、加えて市立習志野高等学校のような全日本吹奏楽コンクールの常連校のある **②吹奏楽が盛んな自治体・ホール** を抽出する。

エ.立地条件等が類似しているホール

- ・習志野文化ホールは、JR「津田沼駅」から徒歩4分、さらに京成「新津田沼」からも徒歩10分という駅近くの好立地にあり、民間商業施設との複合という当時としては大変新しい取り組みとして立地している。

① **駅から近い（徒歩5分以内）**、② **民間商業施設との複合** を抽出する。

※ 最新施設

- ・上記を踏まえ、**竣工年が2006年以降の施設** 24施設を抽出し、そのうち2,000席を大きく超える施設、ホールの性格が異なるもの（歌舞伎専用ホール）、開館1年未満の3館施設を除いた **21施設**まで絞り込んだ。

(2)比較対象施設

上記21施設（公共19施設、民間2施設）に対し、質問紙によるアンケート調査を行い、回答のあった17施設を中心に比較考察を行う。

比較対象施設一覧		凡例		類似事項	民間施設			
抽出条件: 2006年以降開館(12年以内)したホール>1200~2000席 他		条件ア	条件イ	準類似事項	条件ウ	条件エ		
竣工年	施設名称(愛称・ネーミングライツ)	所在地	人口 2015国調	席数 大ホール	①キャッチコピー	②吹奏楽 吹奏楽コンクール常連校	①駅アクセス 徒歩時間	②商業等複合 複合機能
★ 1978	習志野文化ホール	千葉県習志野市	167,291	1475席	「文化の薫るまち」「音楽のまち」	市立習志野高等学校	4分	オフィス、商業
1 2006	都城市総合文化ホール(MJ)	宮崎県都城市	165,029	1461席	基本理念 『豊かな自然と歴史 文化の花咲く 未来へ』		10分	
2 2007	三原市芸術文化センター(ポポロ)	広島県三原市	96,194	1200席			20分	
3 2007	いわき芸術文化交流館(アリオス)	福島県いわき市	350,237	1705席		県立磐城高等学校 県立湯本高等学校	15分	
4 2008	札幌市民ホール(わくわくホリデーホール)	北海道札幌市 (中央区)	1,952,356 (237,627)	1500席	創造性あふれる文化芸術の街 さっ ほろ		1分	
5 2010	刈谷市総合文化センター(アイリス)	愛知県刈谷市	149,765	1541席			3分	
6 2011	八王子市民会館(オリンパスホール八王子)	東京都八王子市	577,513	2021席	基本理念 「人とまちを活かし、心の豊かさを育 む文化のかおるまちづくり」	八王子学園八王子高等 学校	1分	マンション 商業
7 2012	静岡清水水文化会館(マリナート)	静岡県静岡市 (清水区)	704,989 (238,977)	1513席	文化に愛され、文化を愛するまち、 静岡市	東海大学第一高等学校	3分	
8 2014	上田市交流文化芸術センター(サントミュージゼ)	長野県上田市	156,827	1530席	文化を育み、交流と連携で風格漂う 魅力あるまち 上田		7分	美術館
9 2014	川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設(ウエスタ川 越)	埼玉県川越市	350,745	1712席	文化芸術の力で新しい魅力を創造 するまち—川越		5分	県合同庁舎 ホール、公民館 等
10 2015	南陽市文化会館(シェルターなんようホール)	山形県南陽市	32,285	1403席			15分	
11 2016	観音寺市市民会館(ハイスタップホール)	香川県観音寺市	59,409	1200席			5分	
12 2016	長野市美術館	長野県長野市	377,598	1292席	基本理念「文化芸術に親しみ、創造 し継承され、懐かしさと温もりがあふれ るまち」		5分	市役所
13 2016	豊中市文化芸術センター	大阪府豊中市	395,479	1344席	人と文化をはぐくむ創造性あふれる まち豊中		5分	
14 2016	久留米シティプラザ	福岡県久留米市	304,552	1514席	計画の理念「市民が主役の楽しい 文化創造都市・久留米」		10分	
15 2016	京都会馆(ロームシアター京都)【改修、増築】	京都府京都市 (左京区)	1,475,183 (168,266)	2005席	基本方針「成熟した都市文化を基盤 に新しい文化を創造し続けるまち」		10分	
16 2017	日本青年館ホール	東京都23区 (新宿区)	9,272,740 (333,560)	1249席			5分	ホテル・事務所
17 2017	川崎市スポーツ・文化総合センター(カルッツかわさき)	神奈川県川崎市 (川崎区)	1,475,213	2013席	「音楽のまち・かわさき」		15分	体育館・ホール

(3)アンケート調査手法

上記比較対象施設に対し、以下の手法によりアンケート調査を行った。

■調査手法

- ア. 調査期間：平成31年2月12日～2月28日
- イ. 調査手法：調査票（A.公共、B.民間）を郵送・メール・FAXにて
- a.公共施設…担当所管課担当者
- b.民間施設…施設運営企業担当者
- に送信。郵送・メール・FAXにて返信いただく。
- ウ. 回 答：17施設（a.16、b.民間1）…回収率80.9%

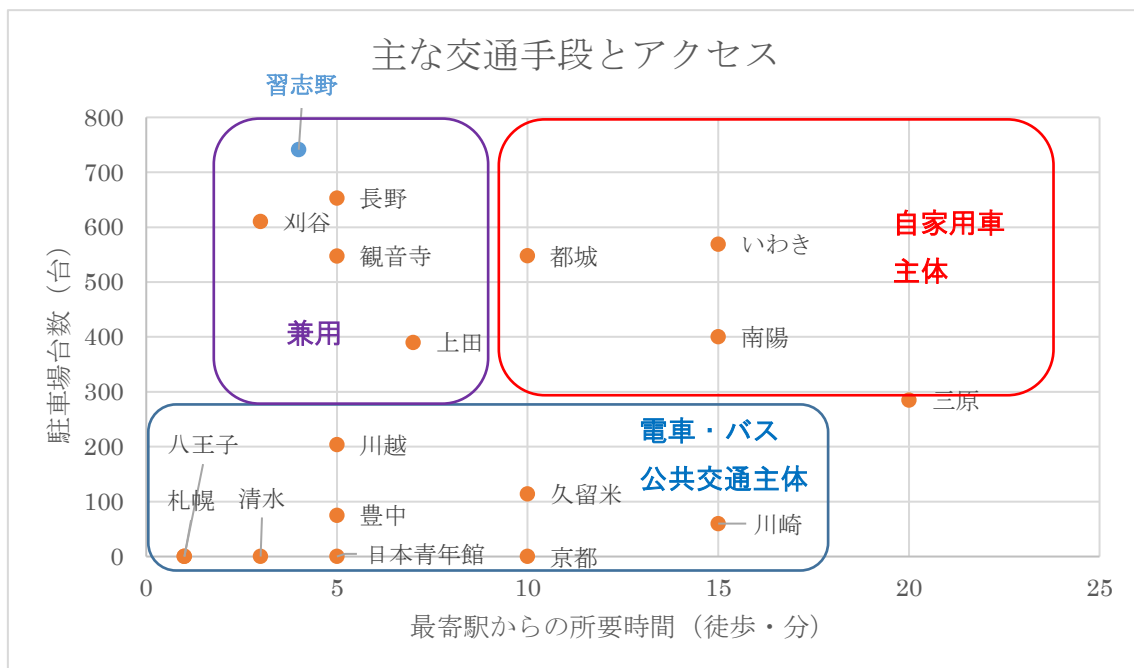
3. 比較調査結果と考察

(1)立地アクセス

習志野文化ホールはJR 総武線「津田沼駅」より徒歩4分、さらに新京成線「新津田沼駅」から10分、京成線「京成津田沼駅」から15分と3線利用することが出来る上、駅前であることからバス・タクシー乗り場も整備されており、公共交通機関でのアクセスに優れている。

同様に、駅近くの施設は人口規模の大きな都市部に集中しており、電車・バス等の公共交通機関を利用して来館する人が多い。一方、自家用車が主な交通手段となる地方部では駐車場台数が多く整備される傾向にある。ホール施設の駐車場については、公演開催時とそれ以外の時の差が大きく、周辺の公共・民間駐車場の共用化や公共交通機関の利用を推奨するなどして、最適化を図っていくことが前提となる。

その際、川越市（県合同庁舎・市役所出先機関等との共用）やいわきアリオス（市役所隣接）のように、平日の日中営業施設と夜間や休日などに公演や利用の多いホールとで、タイムシェア効果が高い。習志野文化ホールのように民間商業施設との複合の場合、ピークタイム（休日等）が重複する可能性が高い。現在は隣接の立体駐車場を含む商業側の駐車場で合計741台分の駐車場があり、駅近くとしては充実した台数が確保されているが、ホール専用でないことから、主催者専用駐車スペースの確保や、来場者への割引サービス⁴など、新ホールを含む再開発の計画の中でも十分な検討・協議が必要である。

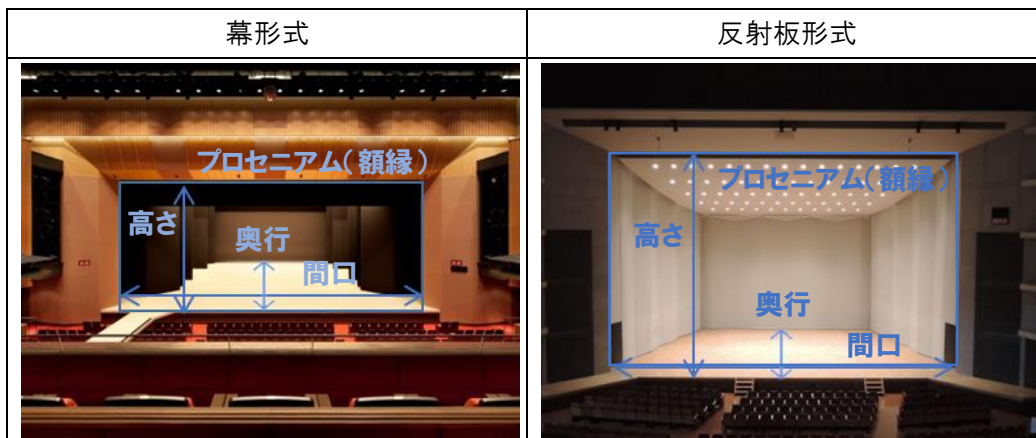


(2)施設（ホール）規模

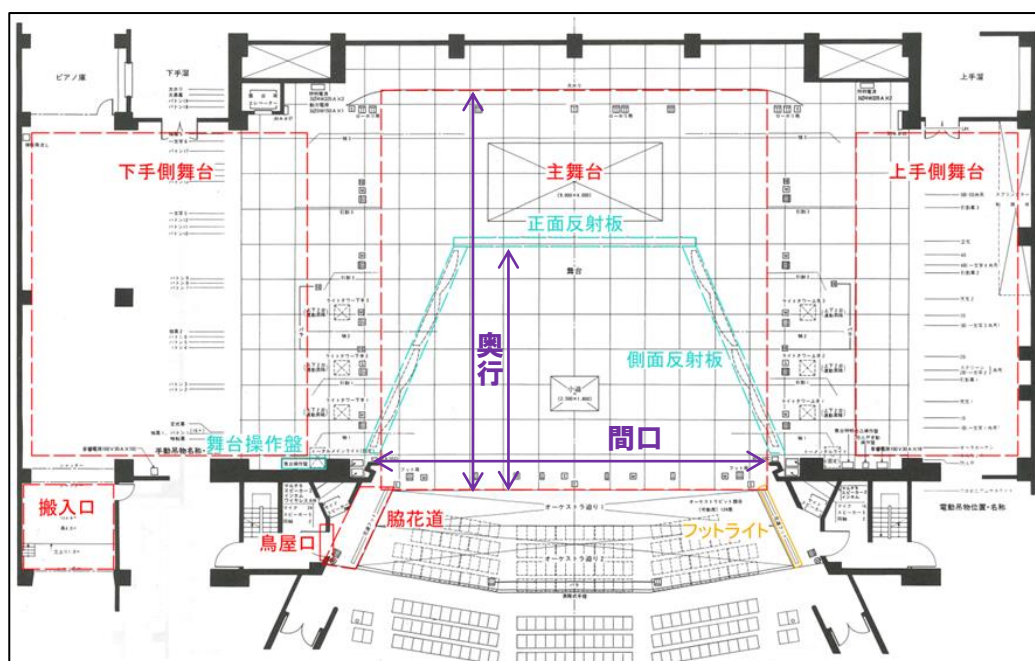
⁴ 現在、駐車場の割引は行っていない。ホール利用者に割引券を配布している施設もある。

現習志野文化ホールは、コンサート、式典・講演会、演劇、バレエなどの様々な利用が可能なプロセニウム形式(額縁で舞台と客席がわかれている)の多目的ホールである。

■多目的ホールの舞台形式とサイズ



■多目的ホールの舞台構成 (舞台平面図)



1階の搬入口は、軒の高さが低いため11tトラックが駐車できず、また道路面からの床の段差（スロープ）があり、低床トラックは腹を擦るため駐車できないという大きな問題がある。

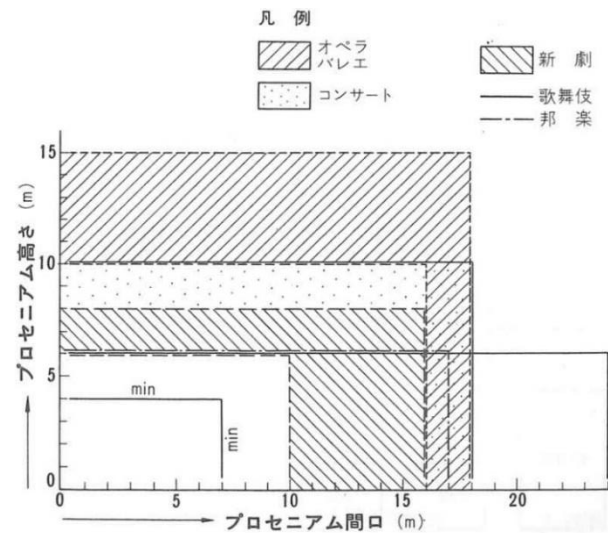
■調査対象施設の比較・考察

①舞台

調査対象とした多目的ホール（1200席から2000席規模）においては、ほとんどのホールが間口18m（10間）以上であり、最も狭い札幌市民センターでも16m（約9間）、最大は久留米シティプラザの21.8mとなっている。

尚、クラシックコンサートで音響反射板を設定する場合、幅18m以上あると3管編成が可能であり、幅20m以上あると4管編成も可能となる。一方、演劇公演では14.4m（8間）が適しているとされている。また、和もの（歌舞伎、日本舞踊など）の公演は、プロセニウム開口幅が広く、高さが低い設定となる。

音楽系、和もの公演を行うために間口10間、演劇系を主とする場合は8間という設定が使いやすいとされているため、多目的ホールでは、建築的には10間以上の開口幅を設け、可動壁パネル（ウィング）または幕で開口を狭めて使用することが多い。



■オーデトリウム目的によるプロセニウム開口寸法
 出典：『建築計画チェックリスト 集会・催し施設』彰国社編（1981）

プロセニウム 間口	習志野文化ホール		19m（約10.5間）	
	14.4m （8間）以下	約18m （10間）	18m （10間）超	
	1/17件	9/17件	7/17件	

また近年、プロセニウム開口高さは、音楽主目的のホールほど高くなる傾向にあり、調査対象施設では、最大はいわき芸術文化交流館と久留米シティプラザの15m、最低は札幌市民ホールの8.7mである。音響性能を検討する結果、反射板の高さが12m以上であることが推奨されることが多く、建築開口高さは12m以上を確保しているホールも、バレエ・演劇等の利用に適した9.0m（30尺）、8.1m（27尺）、7.2m（24尺）、6.0m（20尺）などに対応できるよう昇降式のブリッジ又はパネル（ティザー）を設けている施設もあるが、これらの機構設備がない場合も、幕で開口高さを調整して利用されている。

プロセニウム 高さ	習志野文化ホール		9m
	9m未満	約9m	10m以上
	1/17件	2/17件	14/17件

舞台上部のスノコの高さも、プロセニウム開口高さに比例して高く必要となる。調査対象のホールでは平均25m以上のスノコ高さが確保されている。最大は33m（いわき芸術文化交流館）、最低17.6m（南陽市文化会館）であるが、南陽市文化会館は木造建築という構造上の制約があったためである。

舞台の奥行き寸法の基本は、6間、8間、10間が良く採用される。今回調査対象のホールでは8間以上の奥行きを確保しているホールが多く、袖舞台の寸法も確保されている。

奥行き	習志野文化ホール		16m（約9間）
	14.4m （8間）以下	14.4～18m （8～10間）	18m （10間）以上
	3/17件	10/17件	4/17件

②客席形状

調査対象の施設（1200～2000席のホール）のうち、習志野文化ホールと同形式のワンスロープ式（客席が1層に配置されており、バルコニーを有さない）は、南陽市文化会館のみである。

南陽市文化会館は、クラシックコンサートを主目的として計画されたため、シューボックス形式に近い形状とすること、音が届きにくいバルコニー下の席をつくらないという方針でワンスロープ式が採用された経緯がある。

客席は、音響性能を考慮すると側壁間の幅が広すぎないシューボックス形式に近い方がよいとされ、近年は横に大きく広がらない客席配置が採用されるようになってきている。

また、舞台間口よりも外側に配置されるほど舞台奥が見えない席（見切れ席）となるため、間口を狭めて上演される演劇などの公演の際にも舞台奥まで見える範囲に客席を極力配置するように設計段階で計画する。

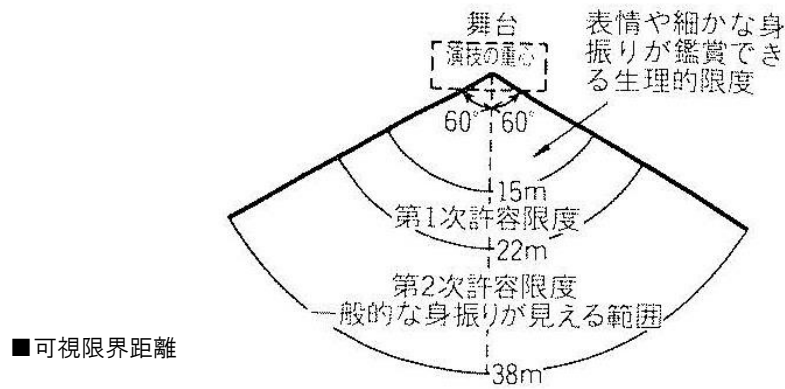
ただしその場合、客席が舞台から遠くなってしまい、演劇やバレエ・ダンスなどの演者の表情・手足の動きなどが見え難くなるため、手足の動きが見える**限界距離22m（第一次許容限度）**に客席を配置するよう、バルコニー席を設けることが一般的となっている。また、バルコニー席を設けることで全席では大きすぎるが、1階席のみの席数であ

れば、丁度良いなどの利用者の選択肢が増えるというメリットもある。

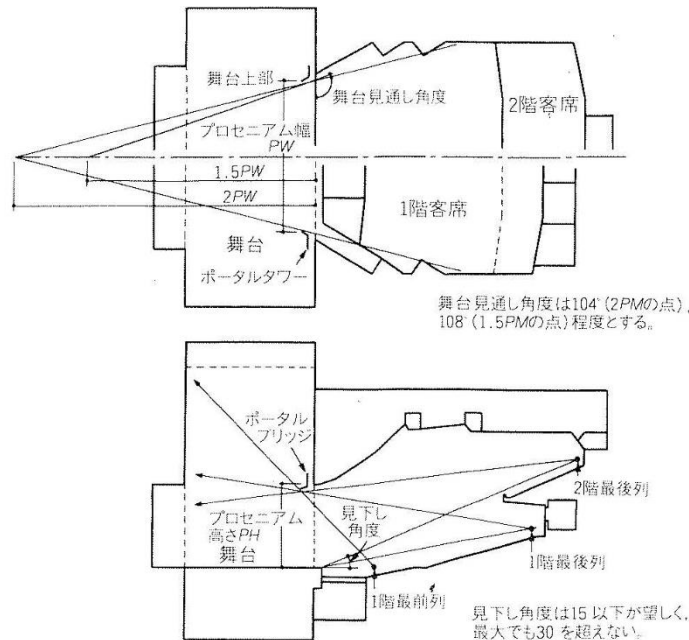
客席配置については、勾配が緩やかだと前の人の頭で舞台が見えない、勾配が急になると怖いなどの様々な意見があるため、安全対策と視線の確保を十分に検討する必要がある。

客席形状	習志野文化ホール		1層	
	1層 (ワンスロブ)	2層	3層	4層
	1/17件	8/17件	5/17件	3/17件

■客席舞台のサイトライン計画



■可視限界距離



■客席舞台のサイトライン計画

出典：『建築計画・設計シリーズ 公共ホール』市ヶ谷出版社編（1999）

③搬入口

搬入は、舞台に直接搬入できることが理想であるが、現習志野文化センターのように舞台レベルが上階に配置されている場合は、エレベータでの搬入が条件となる。

搬入エレベータのサイズも当然のことながら、搬入口にアクセスできるトラックサイズ、重量、台数などが使いやすいホールかどうか判断材料となる。

近年のポップス系コンサートなどでは11tトラック複数台での搬入・搬出が一般的であるため、11tトラックが搬入口に入ることができ、荷台後方からの積み下ろしができることが最低条件となる。

雨天を想定して荷下ろし場所に庇を設けることは最低限必要であるが、近隣に住宅などがある市街地などでは、夜間の騒音問題などを考慮し、屋内に荷物の積み下ろしが書を設けることも求められる場合がある。

今回調査対象のホールでは、ほぼ全てのホールで11tトラック(H=3.8m)に対応する搬入口が設けられている。

(3)主たる機能及び特徴

比較対象の施設が多目的ホールであることから、機能としては大きな差は出ない。設備的にも回答のあった全ての施設に音響反射板を設置されている。

差が出た設備として目立つものは、オーケストラピット迫りの有無、固定花道（脇花道）の有無（固定花道/仮設花道）などである。

①舞台特殊設備

舞台特殊設備とは「舞台機構設備（吊物・床）」、「舞台照明設備」、「舞台音響設備」の3つに分類される。習志野文化ホールとの比較を行うにあたり、同等規模（1200席～2000席）で過去12年間に開館した多目的ホールを抽出したため、舞台内の吊物機構設備（吊物バトン、幕バトンなど）には大きな差は出ない。また舞台照明設備・舞台音響設備も、それぞれの施設に応じた基本的な設備が整っているため比較があまり意味を持たない。

以上より、上演演目、運営に影響する以下の設備を中心に比較を行う。

ア. 音響反射板：クラシックコンサートの際に使用する舞台内の大型舞台機構設備

音響反射板	習志野文化ホール	あり
	あり	なし
	17/17件	0/17件

舞台の演奏エリアを囲う壁・天井で構成され、観客席に音を届けるための反射面・演奏者自身に音を返すための反射面で構成される音響反射板を設置することで、残響時間を延ばすことができるため、クラシックコンサート上演のためには、多目的ホールにおいては不可欠な設備といえる。

演劇等の専用ホール以外では必ずと言って良いほど設置されており、調査を行った多目的ホール全てに設置されている。近年は音楽主目的又は音楽に十分に配慮した多目的ホールでは、反射板の高さが高く・重くなる傾向にある。

調査対象のホールのうち、南陽市文化会館のみ木造ホールという特殊な構造条件のため、正面・側面の音響反射板は大型の吊上げ式ものではなく、仮設タイプの移動型が採用されている。

また八王子市民会館では、音響反射板はオーケストラ迫りを利用することを前提とした反射板設定となっており、豊中市文化芸術センターでは走行式の反射板が採用されている。

吹奏楽に於いても反射板を設置することが一般的となっているが、吹奏楽は音量が大きいいため、ホール内の残響時間のコントロールも併せて検討することが望ましい。

イ. オーケストラ迫り：オペラ、バレエなどでの生演奏を伴う公演を実施するための設備

オーケストラ	習志野文化ホール	あり
迫り+	あり	なし
客席ワゴン	11/17 件	6/17 件

オペラ、バレエなど生の演奏を伴う演目を想定する場合、オーケストラピットが必要となるが、オーケストラピットを使用しない演目も多い多目的ホールにおいては、客席数減、客席と舞台の距離などの観点から通常は客席を配置しておき、必要な時にオーケストラピットをつくることのできる昇降迫り機構を設置することが多い。

そのため、迫り上部の客席はキャスター付き床台車に乗せて容易に移動させることができるようにする機構（客席ワゴン）が採用されることが多い。今回調査のホールでは、オーケストラ迫り機構を持つ施設は客席ワゴンも設備されている。

オーケストラ迫りには、舞台面まで上昇させて前舞台（張出し舞台）を容易に形成できるというメリットもある。

豊中市文化芸術センターでは、オーケストラピットは用意されているが、迫り機構は設置されておらず、組み立て式の床を取り外してオーケストラピットとする簡易方式が採用されている。

オーケストラ迫りと客席ワゴンの床機構設備は設営が容易であり一般的な方式ではあるが、昇降機構のための床下ピット深さの確保、昇降設備の設置、演奏者アクセス動線の確保など工事費が嵩む要素であるため、今までの使われ方、頻度等を考慮して検討する必要がある。

ウ. 大迫り：舞台の大道具転換、コンサート時のひな壇形成

大迫り	習志野文化ホール	なし
	あり	なし
	3/17 件	14/17 件

大迫りは舞台の大道具転換に利用が本来の目的であるが、奈落を使った舞台転換は短期公演では難しく、多目的ホールにおいては上記ア. の音響反射板を設置する際のひな壇として利用、舞台下の奈落（倉庫利用）からの道具類の移動用として使用されていることが多い。大迫りの設置は舞台下の奈落と連動するため、舞台下のスペースも併せて検討が必要である。

今回調査のホールでは、大迫りの設置されているホールは少なく、近年の傾向としては大迫りの設置は少なくなっている。

エ. 小迫り：舞台内の演出用床機構

小迫り	習志野文化ホール	なし
	あり	なし
	1/17 件	16/17 件

多目的ホールにおいて、小迫りは和もの（日本舞踊、歌舞伎等）の公演を想定する場合に設置することが多い。演劇、歌謡ショーなどの演出で使用されることがあるが、設置のためには舞台床下のスペースが必要となる。

今回調査の施設で小迫りを設置している施設は、いわき芸術文化交流館のみである。

オ. 花道（脇花道）：歌舞伎・日本舞踊などで使用

脇花道	習志野文化ホール		固定
	固定	仮設	なし
	5/17 件	6/17 件	6/17 件

歌舞伎公演での花道（本花道）は客席部下手側を客席後方まで延ばす形状であるが、多目的ホールでは設置が難しいため、脇花道の設置が主流である。

脇花道があることが基本の時代もあったが、近年では客席数が減ることに加え、演劇公演では舞台の一部が観客席まで延長されることによる演出の難しさなどから脇花道を設置しないという判断を行う施設も多い。

その反面、脇花道があると持込のスピーカーが設置できるなどのメリットもあり、そのホールの使われ方を十分に検討して設置の必要性を判断する必要がある。

豊中市文化芸術センターでは、歌舞伎等での利用ではなくスピーカーを設置することを目的とした脇花道（固定）が設けられている。

近年は、要望された際に設置ができるよう椅子の一部を取り外し式とし、仮設の脇花道を設置する事例も増えている。

現習志野文化ホールでは、脇花道（上手）にパイプオルガンが配置されており、他施設にはない利用形態となっているため、脇花道の設置はパイプオルガン配置も含め検討が必要である。ただし、演劇・バレエなどのパイプオルガンを使用しない演目では、舞台脇のパイプオルガンの存在感を観客に意識させない配慮も必要である。

脇花道を客席中通路と同レベルとすることができると、車いす利用者の客席から舞台への動線確保が可能となるというメリットもある。

カ. 照明ブリッジ／照明サスバトン：舞台内の照明用吊物設備

照明ブリッジ /照明バトン	習志野文化ホール		バトン
	ブリッジのみ	ブリッジ+バトン	バトンのみ
	4/17 件	4/17 件	9/17 件

公演における照明演出は近年特に重要となっている。また照明設備は LED 化への過渡期にあるため、近年開館のホールでは LED 照明やムービングライトへの対応ができるインフラを整備することが基本となっている。

舞台内の照明演出用吊物の基本は照明サスペンションライトバトン（以降、サスバトンと呼ぶ）であるが、オペラやミュージカルなど、舞台セットを大掛かりに設置する演目では、舞台セット設置後にはサスバトンを床まで下すことができなくなる可能性があるため、これらの演目を想定する場合、スタッフが乗り込んで照明の調整を行うことのできる照明ブリッジ方式の方が良いとされている。

ただし、ブリッジ方式は設営（仕込み）に時間がかかるため、日替りの演目が多いと想定する場合は、旧来のサスバトン方式の方が作業しやすいとの意見もあり、照明ブリッジとするかサスバトンとするかはホールの利用形態を想定した検討が必要となる。

ブリッジ方式の採用が増えた時期もあったが、ブリッジ方式のコスト高もあり前方ブリッジ/後方サスバトンのミックス方式なども出てきている。

キ. 吊物バトン（手動／電動）：舞台内吊物バトン類の操作方法

吊物バトン	習志野文化ホール		電動+手動
	手動のみ	電動+手動	電動のみ
	0/17 件	1/17 件	16/17 件

舞台内の吊物機構は、手動から電動に移りかわってきている。習志野文化ホールにおいても電動と手動のバトンが混在しており、吊荷重の比較的軽いバトン（道具バトン、幕バトンなど）は手動、重量バトン（照明バトン、緞帳など）は電動という構成である。

手動バトンのメリットは、操作者が速度を微妙にコントロールできるというメリットがあり、演劇系のこだわりあるホールでは今でも採用されているが、舞台袖に綱元と呼ぶ操作スペースが必要となるため、舞台袖の面積が狭められてしまう。

近年の道具類の重量化、安全作業への意識向上、綱元操作者の減少に加え、電動巻取昇降装置での低速～高速運転、レベル設定などの細かな制御が可能となったことから、現在では電動巻取方式の吊物機構が主流となっている。

ク. ティザー/ブリッジ・ウイング：プロセニアム開口の高さ、間口を調整する装置

プロセニアム高さを調整する機構にはブリッジ方式とパネル方式があり、パネル方式をティザーと呼び、また間口を調整するパネルをウイングと呼ぶ。

ティザー/ ブリッジ	習志野文化ホール		なし
		ブリッジ	ティザー
	5/17 件	4/17 件	8/17 件
ウイング	習志野文化ホール		なし
	ウイング		なし
	6/17 件		11/17 件

プロセニアム開口が大きくなるに伴い高さ調整の設備が必要で、最も大掛かりな設備は、スタッフが乗り込んで照明の基地としても利用できるブリッジ（ポータルブリッジと呼ぶ場合もある）方式であり、ホール機能として有効であるがコストが嵩む。昇降パネル式のティザー、または幕（水引幕と呼ぶ）を利用する方法が一般的である。

プロセニアム間口の巾調整を演目にあわせて行うための設備としては、ウイングと呼ぶスライド式パネルを手動で動かすことが一般的であるが、これを更に邪魔にならない高さまで上昇させて格納することができると、舞台袖を有効に利用することができる。ウイングを設置しない場合は、間口調整用の幕（源氏幕と呼ぶ）または袖幕で調整を行うことが一般的である。

習志野文化ホールは、プロセニアム開口高さが9mのため、大きな高さ調整の必要はないため、演目にあわせて一文字幕、袖幕での調整を行っている想定する。

ク. 吸音幕・カーテン、残響可変装置：残響時間の調整

クラシックコンサートでは残響時間が長いことが好まれるが、吹奏楽では残響が長すぎない方がよく、講演会・セミナー・演劇などでは残響が長すぎると言葉が聞き取り難くなるため残響時間を短めに設定する必要がある。

音響反射板を設置するだけでも残響時間はある程度変わるが、クラシックコンサート向けに長めの残響時間で設計されているホールでは、大きな可変幅を持たせる必要があるため客席部に吸音幕や残響可変装置を設けることがある。

吸音幕/ 残響可変装置	習志野文化ホール		なし
	あり		なし
	2/17 件		15/17 件

近年は、大掛かりな残響可変装置が採用されることが減り、簡易な幕・カーテンなどの吸音材を設置して残響をコントロールすることが増えている。今回調査の施設の中では、これらの残響コントロール用の設備を備えているのは、いわき芸術文化交流館、観音寺市市民会館の2施設のみであった。

コ. 客席間仕切装置：利用しない2階席を隠すなど客席の縮小利用のための装置

客席間仕切り	習志野文化ホール	なし
	あり	なし
	1/17件	16/17件

ホール規模が大きい場合、市民利用などでは満席にならないこともあるため、1階席のみを使用し2階席を利用しないという貸し出しを行うホールも少なくない。

2階席の照明を消すという対応が最も容易で一般的な方法であるが、2階席が舞台から見えないように隠す機構(電動の天井・パネル昇降機構)を設置している施設もある。ただし、今回調査対象の施設にはそのような大掛かりな機構が採用されている事例はなかった。

三原市芸術文化センターには2階席中通路よりも後方の席を隠すためのパネルが用意されているが、設営に手間がかかることからほとんど使用されていないようである。

サ. その他

パイプオルガン：

現習志野文化ホールにはパイプオルガンが設置されているが、今回調査対象ホールでパイプオルガンを保有する施設はなく、唯一いわき芸術文化交流館が移動型のパイプオルガン(ポジティブオルガン)を保有しているのみである。

近年はパイプオルガンの導入事例が少なくなっており、音楽専用ホールではない多目的ホールへの設置はほとんどないと言っても差し支えないと考える。

その他 特筆すべき設備は、以下の通りである

- ・仮設能舞台：静岡市清水文化会館、いわき芸術文化交流館(中劇場と兼用)
- ・舞台前方東立床：静岡市清水文化会館、
- ・舞台前迫り：いわき芸術文化交流館(客席拡張、演出用)
- ・客席迫り：刈谷市総合文化センター(張出し舞台用)

(4)稼働状況

①ホール稼働状況

ホールの稼働状況として、利用可能日のうち実際に利用された日数の割合(「稼働率」)について、人口が多い自治体が高い傾向にある。また、年間の利用人数(来場者)については、客席数が大きい程高い訳ではなく、日本青年館ホール(1,249席)と札幌市民ホール(1,500席)のように、「動員力」(1日あたりどれだけの人を集められているか)が高いホールもある。

また、利用者の一日当たりの人数をホールの席数で割った平均占積率(ホールの席がどの程度埋まっているか)をみてみると、日本青年館ホール(1,249席)と札幌市民ホール(1,500席)が突出しており、日常的に満席に近い状態で稼働していると言える。

習志野文化ホールについては、上記の内容を21施設と比較しても、遜色のない稼働状況(順位としては中間より上)にある。

■高稼働率の施設

施設名	A	A'	B	C	D	E(D/C)	F	G(E/D)	H(G/B)
	人口 人	商圏※ 人	大ホール 席	利用可能日数 日	利用日数実績 日	稼働率 %	年間利用 人	動員力 人/日	占積率 %
習志野文化ホール	167,291	1,249,202	1,475	308	226	73.38%	198,156	877	59.4%
札幌市民ホール	1,966,735	1,531,969	1,500	314	243	77.39%	301,810	1,242	82.8%
刈谷市総合文化センター	151,702	839,543	1,541	299	268	89.63%	245,421	916	59.4%
八王子市民会館	562,460	1,663,342	1,877	317	296	93.38%	351,129	1,186	63.2%
静岡市清水文化会館	694,643	919,115	1,513	270	217	80.37%	150,389	693	45.8%
川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設	353,115	1,465,617	1,712	324	287	88.58%	245,705	856	50.0%
豊中市文化芸術センター	398,812	1,835,407	1,344	262	225	85.88%	162,944	724	53.9%
京都府会館	1,412,570	2,529,418	2,005	315	258	81.90%	350,652	1,359	67.8%
日本青年館ホール	346,162	1,711,490	1,249	277	258	93.14%	297,600	1,153	92.4%
川崎市スポーツ・文化総合センター	1,517,756	1,529,102	2,013	286	271	94.76%	222,824	822	40.8%

※隣接する自治体の人口との合計を「商圏人口」としている

最上位

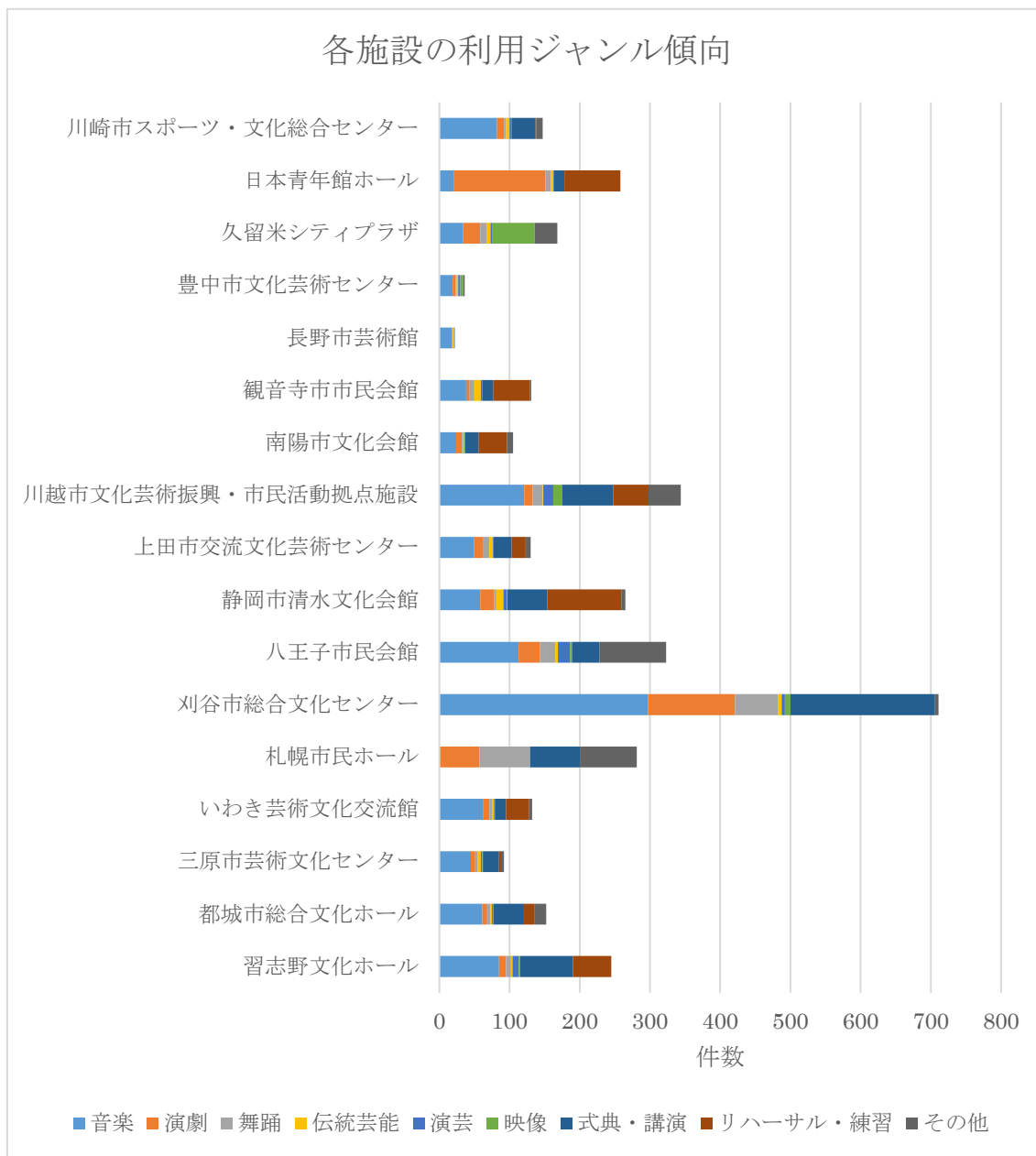
②事業内容

ホールが具体的にどのような内容で使われているか考察すると、前述のホールの規模や機能といったホールの仕様や目的はもちろん、自治体・所有者の意向などにより、事業の種類(自主事業・共催事業・貸館事業)や重点ジャンル、事業数など様々である。

各施設で集計方法が異なるため、正確な比較は行えないが、ここでは各施設の特徴を捉えるため8つの利用ジャンルで傾向を捉える。まず日本青年館ホールと札幌市民ホールは、演劇や舞踊といった舞台芸術(パフォーミングアーツ)が多く、久留米シティプラザでは映像系の事業が他施設に比べ多いといった傾向が挙げられる。

また、「リハーサル・練習」の多少は、先の年間利用者・動員力・占積率に加え、利用料収入にも影響があるといえる⁵。習志野文化ホールでは、音楽、式典・講演ジャンルについて多い。

⁵ リハーサル・練習利用…公立文化施設では、一般的に入場料収入に応じた施設利用料金体系と使用した設備や電気量に応じた設備使用料を設けており、リハーサルや練習利用については、通常料金より安価に利用できるような料金設定をしている場合が多い。



※刈谷市総合文化センターは日単位ではなく、区分単位で集計している

(5)利用料金

ホールの利用料金は、人口や地価の高い都心部や駅近く、公演収入に直結することから席数が多いほど利用料が高くなるのが一般的である。民間施設のように運営経費を利用料で賄おうとすれば、利用料金は高くなる。公共施設ではそれでは市民が利用できなくなる等の理由で、市民ユースに配慮した価格を設定するのが一般的である。

さらに平日と休日料金、入場料の徴収の有無やその金額に応じた価格設定など、各自治体・運営者によって様々であるため、ここでは利用ニーズの高い休日において、割引を適用しない基本料金（最低価格）と営利目的や入場料金を徴収した場合の最高金額を比較した。前者が市民ユース、後者がプロユースと想定される。ここでは17施設に加えて、近隣の市川市文化会館（1,945席）と船橋市民文化ホール（1,000席）も加えて比較した。

■利用料金比較

施設名	席数	●市民ユース				●プロユース			
		休日基本料金		1席あたり		休日最高料金		1席あたり	
		順位	円	順位	円	順位	円	順位	円
習志野文化ホール	1475	4	394,000	3	267	7	591,000	6	401
市川市文化会館	1945	6	313,620	6	161	6	627,250	9	322
船橋市民文化ホール	1000	19	79,200	18	79	18	158,400	17	158
都城市総合文化ホール	1461	16	125,800	16	86	14	289,030	14	198
三原市芸術文化センター	1209	17	124,680	13	103	12	317,933	11	263
いわき芸術文化交流館	1705	11	170,600	15	100	11	426,500	12	250
札幌市民ホール	1500	8	239,800	7	160	5	756,000	3	504
刈谷市総合文化センター	1541	13	156,900	14	102	15	286,000	16	186
八王子市民会館	1877	5	342,000	5	182	4	806,000	4	429
静岡市清水文化会館	1513	12	165,000	11	109	8	577,500	7	382
上田市交流文化芸術センター	1530	15	127,700	17	83	19	147,680	19	97
ウエスタ川越	1712	7	258,500	8	151	9	517,000	10	302
南陽市文化会館	1403	18	81,500	19	58	17	181,250	18	129
観音寺市市民会館	1200	14	128,200	12	107	16	256,400	13	214
長野市芸術館	1292	10	185,500	9	144	10	426,600	8	330
久留米シティプラザ	1514	9	198,400	10	131	13	297,600	15	197
京都会館	2005	2	681,300	2	340	1	1,135,400	2	566
日本青年館ホール	1249	1	850,000	1	681	2	850,000	1	681
川崎市スポーツ・文化総合センター	2013	3	422,760	4	210	3	845,520	5	420

■ 上位施設

本調査でも、民間施設、都市部にある席数の大きいホールが基本・最高料金共に上位となっている。その中で、習志野文化ホールの料金は他施設や近隣施設と比べてやや高い印象がある。

市民ユースよりはプロユースの方が比較的有利な設定であるものの、先の「施設（ホール）規模」で指摘した搬入条件の影響が懸念される。11tトラックが利用できず、搬入・搬出に時間と手間が掛かってしまい、さらに延長料や人件費等が必要となれば、主催者と

しては市川市文化会館を選択したり、持込機材の少ないアーティストや演目を選択していくなど、マイナス要因となりかねない。

ホールを建替える際、機能面や環境面、設備などが旧施設より改善・向上していることから料金を引き上げることが多い。しかしながら、現状料金や市川市文化会館とのバランスを考慮すると、新ホールの料金は、大幅に引き上げることが難しいと考える。

(6)管理運営形態

管理運営のあり方として、公共施設の場合、直営か指定管理者、近年では設計、建設から管理運営までを一括して民間に委ねるPFI（Private Finance Initiative）手法などがある。

回答のあった施設のうち、公共施設16施設の内訳として、直営が4件、指定管理者が10件となっている。指定管理者の場合、公募と非公募は、7：3。さらにPFIは3件のうち、いわき芸術文化交流館では、維持管理部門をPFI事業とし、運営・技術部門は直営で行うという形態をとっている。

民間施設の日本青年館ホールは、所有者である一般社団法人日本青年館から民間企業に管理運営業務が委託されている。

習志野文化ホールと同様、非公募で指定管理者を選んでいる施設として、都城総合文化ホール、長野市芸術館、京都会館が挙げられる。その理由として、自治体出損財団で開館から継続して運営に携わっていること、自治体や地域内の他施設との連携や地元文化団体等とのネットワークを有する団体であることが挙げられている。

(7)その他

①愛称／ネーミングライツ

近年では、愛称やネーミングライツといった、施設の正式名称とは異なる名称を付ける施設が増えている。愛称のある施設は8施設（47.1%）、命名権によって収益を得ている施設も5施設（29.4%）となっている。新ホールを建設する際には、いずれかを導入すること検討しても良いかもしれない。

②商圏人口

大ホールの公演では、自治体住民だけではなく、近隣の自治体住民も含めた商圏が対象とすることが考えられる。17施設の自治体と隣接自治体の人口を併せた合計を「商圏人口」とし、比較した。

習志野市は、単独自治体でみた時、都城市（1,461席）、刈谷市（1,541席）、上田市（1,530席）が近いが、商圏人口で見た時、静岡市（1,513席）、川越市（1,712席）が近くなる。単独自治体の人口規模、商圏としても現状の1,500席規模は違和感のない規模感と言える。

■人口・商圏比較

施設名	自治体	人口		隣接自治体人口計		合計(商圏)			
		席数	順位	順位	人	順位	人		
習志野文化ホール	千葉県習志野市	1,475	12		167,291	8	1,081,911	9	1,249,202
都城市総合文化ホール	宮崎県都城市	1,461	13		161,888	12	496,674	13	658,562
三原市芸術文化センター	広島県三原市	1,209	16		94,347	16	191,929	17	286,276
いわき芸術文化交流館	福島県いわき市	1,705	10		342,384	18	116,160	15	458,544
札幌市民ホール	北海道札幌市	1,500	1		1,966,735	4	1,288,829	1	3,255,564
刈谷市総合文化センター	愛知県刈谷市	1,541	15		151,702	9	687,841	10	839,543
八王子市民会館	東京都八王子市	1,877	5		562,460	7	1,100,882	6	1,663,342
静岡市清水文化会館	静岡県静岡市	1,513	4		694,643	10	685,934	8	1,380,577
上田市交流文化芸術センター	長野県上田市	1,530	14		156,827	11	496,784	14	653,611
ウエスタ川越	埼玉県川越市	1,712	8		353,115	6	1,112,502	7	1,465,617
南陽市文化会館	山形県南陽市	1,403	18		31,519	15	268,247	16	299,766
観音寺市市民会館	香川県観音寺市	1,200	17		60,466	17	126,083	18	186,549
長野市美術館	長野県長野市	1,292	7		377,967	14	302,525	12	680,492
豊中市文化芸術センター	大阪府豊中市	1,344	6		398,812	1	1,436,595	4	1,835,407
久留米シティプラザ	福岡県久留米市	1,514	11		306,112	13	466,533	11	772,645
京都会館	京都府京都市	2,005	3		1,412,570	5	1,116,848	3	2,529,418
日本青年館ホール	東京都新宿区	1,249	9		346,162	2	1,365,328	5	1,711,490
川崎市スポーツ・文化総合センター	神奈川県川崎市	2,013	2		1,517,756	3	1,297,469	2	2,815,225

(8)パイプオルガンについて

過去5年間のパイプオルガンの使用実績を見ると、年間で平均13回程度の実績となっている。パイプオルガンは、一つ一つ特注であることから、パイプオルガンを有する施設では、専属オルガニストを設置したり、オルガンを活用した事業を展開している施設も多い。こうした事業を展開することによりさらなる活用を図ったり、横浜みなとみらいホールのような、学生のインターンシッププログラムなど、音楽大学や音楽大学生との連携という形もある。

ホールの象徴として残す、新ホールへの移設ということになれば、より積極的な活用策を検討したい。

■過去5年のパイプオルガン使用実績

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平均
公演回数	15	14	13	14	11	13.4
リハーサル	19	18	14	17	10	15.6
合計(回)	34	32	27	31	21	29
(件数)	20	21	17	19	14	18.2

■専属オルガニスト

札幌コンサートホール Kitara
20代目 シモン・ボレノ
19代目 マルタン・グレゴリウス
18代目 ダヴィデ・マリアーノ
17代目 ジョン・ウォルトハウゼン
16代目 オクタヴィアン・ソニエ
15代目 マリア・マグダレナ・カチョル
14代目 フロラン・ガリエール
13代目 コラリー・アメジカン
12代目 ローラン・シプリアン・ジロー
11代目 シンディ・カスティエーヨ
10代目 シルヴァン・エリ
9代目 ギラン・ルロワ
8代目 イェンス・コルンドルファー
7代目 マテュー・マニュゼスキ
6代目 ジャン＝フィリップ・メルカールト
5代目 モニカ・メルツォーヴァ
4代目 ファン・マリア・ペドレロ
3代目 ファッサン・ラスロ
2代目 イヴ・ラファルグ
初代 パスカル・マルソー

東京芸術劇場
・小林 英之
・新山 恵理
・平井 泰子 (副オルガニスト)
・川越 聡子 (副オルガニスト)

ミューザ川崎シンフォニーホール
・大木 麻里

新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあ
・山本 真希

愛知県芸術劇場
・都築 由理江

新宿文化センター
・高橋 博子

■パイプオルガン活用事業例

・横浜みなとみらいホール
「ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム」

・東京芸術劇場
「パイプオルガン講座」
「ランチタイム・パイプオルガンコンサート」
「ナイトタイム・パイプオルガンコンサート」

・水戸芸術館
「パイプオルガン・プロムナード・コンサート」

4. 市民意識調査からの考察

市が実施した市民意識調査の中から、習志野文化ホールに関連する結果を抽出する。

■調査手法

- ア. 調査期間：平成30年10月29日～11月12日
 イ. 対 象：住民基本台帳に記載されている15歳以上の市民5,000人を
 無作為抽出
 ウ. 調査手法：アンケート票を自宅に送付し、返信用封筒にて回答を返送

①取り組むべき生涯学習・スポーツ施策（2つまで）

「公民館、図書館、生涯学習施設の整備」が最も求められていることから、大久保地区整備で充足されるものと、新ホールに付随した施設として整備すべきものを精査する必要がある。

No.	カテゴリー名	n	%
1	各種公民館講座の充実	346	13.9%
2	公民館、図書館等、生涯学習施設の整備	902	36.2%
3	スポーツ施設の整備・充実	744	29.9%
4	図書館の充実	497	20.0%
5	芸術・文化活動の機会の充実	253	10.2%
6	文化財の保護や伝承	107	4.3%
7	生涯学習指導者の育成	168	6.7%
8	生涯スポーツ活動の機会の拡充	401	16.1%
9	競技スポーツの振興	92	3.7%
10	青少年の健全育成の推進	238	9.6%
11	放課後こども教室の充実	264	10.6%
12	その他	46	1.8%
	無回答	162	6.5%
	全体	2489	100.0%

②JR 津田沼駅周辺に必要な施設・機能（すべてに○）

「駐車場」「防犯機能」「南北の回遊性」「駐輪場」の順に求められており、再開発の際の参考としたい。

No.	カテゴリー名	n	%
1	駐輪場	673	27.0%
2	駐車場	755	30.3%
3	歩道	355	14.3%
4	駅前広場	360	14.5%
5	公園	233	9.4%
6	ホール	146	5.9%
7	無電柱化	453	18.2%
8	南北の回遊性	683	27.4%
9	エレベーター・エスカレーター	652	26.2%
10	公衆便所	498	20.0%
11	喫煙所	177	7.1%
12	地域交流施設	147	5.9%
13	休憩場所	491	19.7%
14	防災機能（防災倉庫、帰宅困難者支援施設等）	613	24.6%
15	防犯機能（交番、防犯カメラ設置等）	718	28.8%
16	賑わい創出スペース（イベントスペース等）	244	9.8%
17	ペDESTリアンデッキの屋根	251	10.1%
18	災害用掲示板	330	13.3%
19	バス待ち電光掲示板	631	25.4%
20	子育て支援施設	291	11.7%
21	医療福祉施設	321	12.9%
22	その他	116	4.7%
	無回答	197	7.9%
	全体	2489	100.0%

③習志野文化ホールの利用経験（1つ）

利用したことが「ある」が合わせて71.7%で高く、多くの市民が利用した経験があることが分かる。

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある（過去1年以内）	543	21.8%
2	ある（1年以上前）	1242	49.9%
3	ない	637	25.6%
	無回答	67	2.7%
	全体	2489	100.0%

④習志野文化ホールのあるべき姿（1つ）

約5割の人が現在と同規模程度の客席数をで良いと答えており、新ホールの客席規模を考える上で、重要な意見である。

No.	カテゴリー名	n	%
1	現在と同等程度の客席数	1210	48.6%
2	現在より多い客席数	269	10.8%
3	現在より少ない客席数	56	2.2%
4	わからない	816	32.8%
5	その他	41	1.6%
	無回答	97	3.9%
	全体	2489	100.0%

⑤ホールに設けてほしい施設（3つ以内）

最も多かったのが「レストラン・カフェ」であり、次いで「多目的フリースペース」という意見が多かった。「レストラン・カフェ」については、商業との複合を活かして検討したい。「多目的フリースペース」についても気軽に立ち寄ることができる、滞在することができる“場”が求めており、市民の“居場所”が求められていると言える。

No.	カテゴリー名	n	%
1	小ホール	417	16.8%
2	スタジオ・練習室	296	11.9%
3	展示室・ギャラリー	350	14.1%
4	会議室	84	3.4%
5	多目的フリースペース	637	25.6%
6	市役所の連絡所	355	14.3%

7	レストラン・カフェ	964	38.7%
8	託児施設	350	14.1%
9	その他	120	4.8%
	無回答	431	17.3%
	全体	2489	100.0%

⑥民間活力の活用（1つ）

公共施設の建替え、管理運営に民間の力を活用することについて、7割以上が「実施すべき」と答えており、再整備事業に当たっては、最新事例にも見られたPFIによる整備・管理運営、現在も行っている指定管理者制度について、比較的肯定的に捉えられる方が多いと言える。ただし、PFI事業については、向いている施設・事業があると言われていたため、公共施設として一括りにしてしまうことは、注意が必要である。特にホールや文化事業は収益が生まれるものではないため、慎重な検討・議論が必要である。

No.	カテゴリー名	n	%
1	積極的に実施すべき	592	23.8%
2	どちらかといえば実施すべき	1211	48.7%
3	どちらかといえば実施すべきではない	327	13.1%
4	実施すべきではない	115	4.6%
	無回答	244	9.8%
	全体	2489	100.0%

⑦利用料金の引き上げ

料金の引き上げについては、反対する意見が多く、最新事例との比較においても、習志野文化ホールは高めの料金設定であることから、引き上げは慎重にならざるを得ないといえる。

No.	カテゴリー名	n	%
1	積極的に実施すべき	119	4.8%
2	どちらかといえば実施すべき	549	22.1%
3	どちらかといえば実施すべきではない	1092	43.9%
4	実施すべきではない	488	19.6%
	無回答	241	9.7%
	全体	2489	100.0%

⑧習志野文化ホール・市民会館の利用頻度（一つ）

この結果は、全国的な平均とも合致しており、普段から利用している人は全体の1割から2割程度、利用したことがないという人が多いのが一般的である。先のレストラン・カフェ、フリースペースにみられるような、目的がなくても気軽に訪れられる施設、近年では「開かれたホール」や「サード・プレイス（居場所）」といったキーワードが、新ホールでもヒントになると考える。商業施設との複合であることを最大限いかして、相互についでに立ち寄れる関係性が生み出せると、この状況が大きく変わってくると考える。

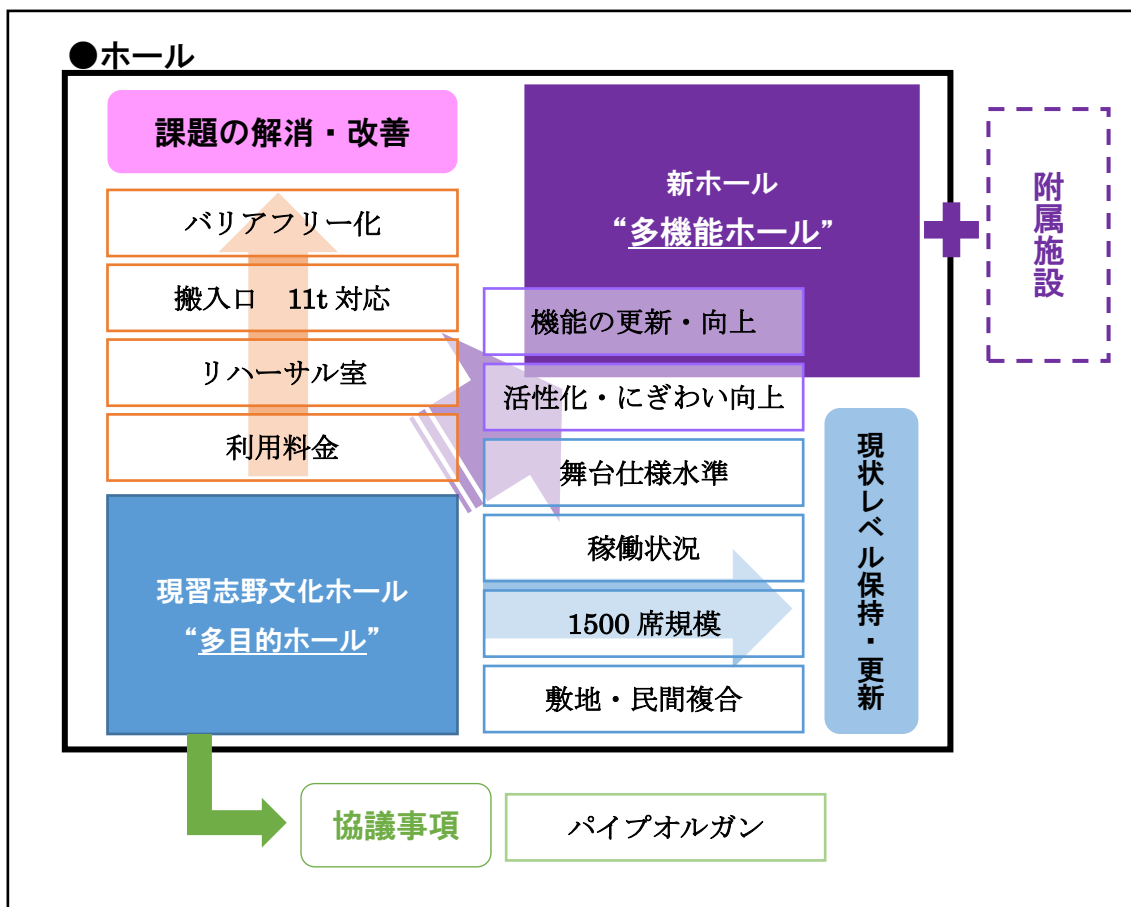
No.	カテゴリー名	n	%
1	よく利用している 月1回程度	34	1.4%
2	時々利用している 数カ月に1回程度	373	15.0%
3	ほとんど利用しない 数年に1回程度	1186	47.6%
4	利用したことがない	758	30.5%
	無回答	138	5.5%
	全体	2489	100.0%

5. 新文化ホールの想定される施設像と概算費用

(1)新ホールの方向性

現習志野文化ホールの規模や機能、稼働状況などを総合的に判断すると、新文化ホールの方向性として、以下のポイントが挙げられる。

■新ホールの方向性



①課題の解消・改善

ア. バリアフリー化

築40年以上経過する現施設は、今日の基準に比べ、バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応十分でないことが挙げられる。具体的には客席側のエレベーターやエスカレーターの設定、トイレの数や洋式化、オストメイト対応、ベビーチェアやおむつ台の設定、授乳室や親子室の設定など最新の基準に準じた仕様、設備に更新していくことが求められる。

イ. 搬入口の改善

11tトラックが留め置き出来ない、傾斜が急なため車高が低いトラックが侵入できないといった搬入口の課題を解消することが求められる。さらに十分な荷捌きスペースを確保するなど検討が必要である。

ウ. リハーサル室配置

ホール付随施設についての検討と併せて、現在楽屋エリア内にあり、ホールが利用されている時の運用が難しい状況を解消することが求められる。ホールの利用がある時にも単独で利用することも出来、ホールと併せて利用することも可能なよう、配置を検討することが必要である。

エ. 利用料金

現状の価格が比較的高めの設定であることから、建替えによる金額の引き上げについては、注意が必要である。

②現状レベルの保持

ア. 敷地・民間複合

現地建替えが前提となることから、これまで以上に双方で相乗効果が挙げられるよう検討、工夫がなされることが必要である。

イ. 稼働状況

他施設と比較しても、ホールは高い稼働率となっていることから、これを維持していくことと、ホール以外の諸室の稼働や連携を考えた新施設を期待する。

ウ. 客席規模

現在の客席規模（1,500席）は、人口や稼働状況などから見ても適当な規模である。さらに大きな規模にする選択肢もあるが、その場合、近隣の市川市文化会館（1,945席）との競合と棲み分け、大規模になるほど市民としては利用しづらくなる点について考慮しながら検討していく必要がある。現在、ワンスロープの客席であるが、敷地面積上の制約などで複層化が必要になることも想定しておかなければならない。

エ. 舞台仕様水準

最新施設と比較しても、遜色のないレベルの施設であることから、現状レベルを保持したまま、さらに使い勝手の良いホールにしたい。

③多機能ホール化

現状の多目的ホールを更に機能的に向上させた“多機能ホール”を目指したい。具体的には、反射板の吊り位置や照明ブリッジ等、既存設備や機構などの今後の検討の中で詳細な検討を期待する。併せて、民間商業施設との複合についても、活性化やにぎわいが向上していくよう相互に相乗効果が働くよう検討されることを期待する。

④引き続き検討が必要な事項

ア. パイプオルガン

現在のホールでは、象徴的な設備としてパイプオルガンが位置づけられているものの、積極的に活用されているかという点もそうでもない。ホール内にパイプオルガンが露出していることにより、照明の反射など演出面、鑑賞での影響も気になるものの、ホール内にあった方が良いか、ホールの外（エントランス等）に置いてあった方が良いか、可能性も含め、置賜文化ホールの能舞台のように可動式のパイプオルガンなど、新ホールに継承移設するかどうか引き続き検討が必要である。パイプオルガンの移設にあたり、解体・保管・オーバーホール、再設置・調整といった専門的な作業が必要となるため、これに掛かる予算を上乗せして確保する必要がある。

イ. 附属施設

現在は楽屋エリア内にリハーサル室があるため、単独での貸出が出来ないこと、ギャラリーはあるものの、稼働率は高くない状況、別施設としてモリシアホールがあるが、ホールだけでなく、施設全体としてどのような構成とするか、ホールのみで特化していくのか、市民の活動拠点施設についても一体的に整備していくのか等、市内の公共施設マネジメント等の視点でも検討が必要である。尚、練習室等を多数配置するためには、床面積が現状よりも大きく必要となること、諸室の兼用化（多用途に利用できるようにする）を行い、面積の縮小に努めつつゆとりの空間を持つことができるような検討も並行して行う必要がある。

(2)概算建設費

調査対象施設のホール部分についてのアンケート結果より、ホール部分の延床面積と工事費の回答のあったこの10施設の平均金額は以下のとおりである。

ホールと併設して練習室・会議室・ギャラリーなどのその他施設が多数含まれる場合、面積当たりの単価は安くなる傾向にある。

■建設費（参考）

アンケート回答施設の平均 (過去12年)	<u>69万円/㎡</u> (税別)
近年の発注事例での平均 (過去5年)	<u>76万円/㎡</u> (税別)
複合施設事例 八王子市民開館オリンパスホール (2011開館)	<u>118万円/㎡</u> (税別)
新築単独施設(想定)	<u>80万円/㎡</u> (税別)

近年の人件費・材料費の高騰により、アンケート回答結果(過去12年に開館の施設)と比較すると、過去5年に着工の施設の工事費は約10%上昇していることになる。

2011年に開館した八王子市民会館オリンパスホール(2021席)は、再開発施設内(舞台階:4階)に計画されたホールで、複合施設内、駅に近い立地など現習志野文化ホールよりも規模は大きい、類似した施設といえる。

以上の結果に加え、近年の発注・入札状況を考慮し、新築単独施設の場合約80万円/㎡の予算は必要であると判断する。また、その他別途備品、別途工事予算等の確保も考慮しておく必要がある。

■1席当たりの床面積（参考）

近年の発注事例での平均 (過去5年)	<u>6.7㎡/席</u>
複合施設事例 八王子市民開館オリンパスホール (2011開館)	<u>5.5㎡/席</u>
現習志野文化ホール	<u>5.9㎡/席</u>

以上より、付帯諸室を備えた1500席の多目的ホールとモリシアホール(220席)同等のホールを配置すると想定して試算を行うと、単独施設の場合、建設費として約92億円の費用がかかることになる。

$$1500 \text{ 席} + 220 \text{ 席 (モリシアホール同等)} \times 6.7 \text{ m}^2 = 11,524 \text{ m}^2$$

$$11,524 \text{ m}^2 \times 80 \text{ 万円} = 9,219,200,000 \text{ 円}$$

複合施設内に配置されるホールは、単独の施設と比較して、避難・搬入のための縦動線(階段やエレベータ)、共用部の按分負担などで床面積が増え、費用負担が大きくなる傾向にあるため、配置計画における検討も重要である。

■過去の発注事例 工事費と面積(入札結果公表新聞情報より)

施設名	鶴岡市文化会館	太田市民会館	観音寺市民会館	白河市市民文化会館	高崎市文化芸術センター	(仮称)藍住町文化ホール	四国中央市市民文化ホール	小田原市民ホール	秋田県・市連携文化施設
場所	山形県鶴岡市	群馬県太田市	香川県観音寺市	福島県白河市	群馬県高崎市	徳島県藍住町	愛媛県四国中央市	神奈川県小田原市	秋田県秋田市
契約年	2014年	2014年	2014年	2014年	2016年	2017年	2016年	2019年	2019年
竣工年(予定)	2017年	2017年	2017年	2016年	2019年	2019年	2019年	2021年	2021年
敷地面積	13,096.84 m ²	12,884.73 m ²	193,700.00 m ²	11,728.09 m ²	10,983.22 m ²			9,720.00 m ²	17,400.00 m ²
建築面積	6,210.55 m ²	4,931.31 m ²	6,890.00 m ²	6,064.61 m ²	8,826.01 m ²			4,596.00 m ²	
延床面積	7,886.56 m ²	8,485.46 m ²	8,685.00 m ²	9,683.79 m ²	27,355.15 m ²	5,123.00 m ²	5,986.00 m ²	8,543.00 m ²	22,653.00 m ²
客席数 他	1,168席	最大1,501席	1,200席	1,104席	2,018席	633席	1,007席	1,113席	2,015席
	180席	スタジオ	334席	321席	567席	保険センター	212席	300席	806席
	練習室2室	多目的室1	リハ室	練習室 他	413席	地域包括支援センター	展示スペース	スタジオ4室	リハーサル室2室
	他	多目的室2	会議室		練習室 他	社会福祉協議会 他	他	ギャラリー 他	練習室・研修室 他
1席当りの面積(m ² /席)	5.85	5.65	5.66	6.80	9.12	8.09	4.91	6.05	8.03
平均(m ² /席)	6.69								
建設工事費(千円・税別)	7,840,000	5,638,470	5,478,000	7,302,784	22,170,000	3,495,000	4,446,000	6,026,400	18,213,550
平米単価(円/m ²)	810,451	994,096	664,486	630,743	754,125	682,217	742,733	705,420	804,024
平米単価平均(税別)	754,255								